100年先に伝えていく毛呂山の歴史遺産

鎌倉街道

第2回 地中に眠る中世の歴史

「中世の世界を探る」

中世の歴史を調べると言うと、難しそうな古文書を調べることをイメージすると思います。古文書は、歴史を調べるのに重要な役割を果たします。しかし、日常の風景や暮らしの様子について当時の人が描写した古文書は、貴族や僧の日記等のほかにはほとんど残っていません。

そこで注目されるのが、地面の下に広がる遺跡の存在です。

今回は、発掘調査の成果から鎌倉街道周辺に中世の風景に迫ります。

鎌倉街道を掘る

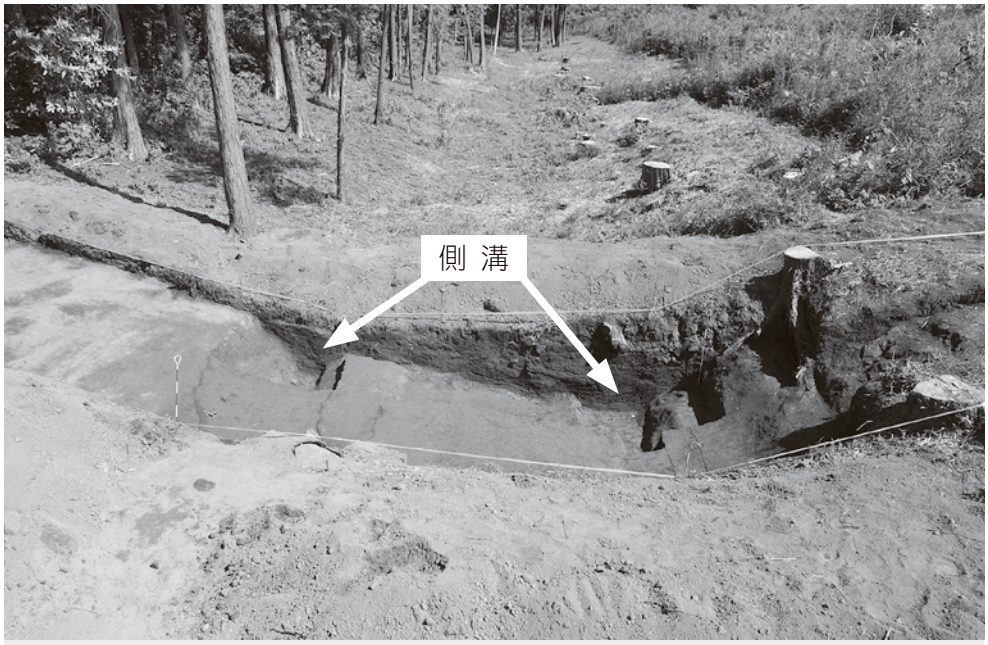
平成23年に行われた市場・西大久保地区の鎌倉街道掘割遺構の発掘調査の様子です。現在の地面を25㎝ほど掘り下げたところから、中世の人々が歩いていた鎌倉街道の路面が発見されました。

注目される毛呂山の鎌倉街道と中世の遺跡群

昭和37年、延慶の板碑に関わる文化財調査を皮切りに毛呂山町における鎌倉街道沿いの中世遺跡調査が進められ、鎌倉街道とその周辺に広がる中世の風景が少しずつあきらかになってきました。

特に、埼玉県立毛呂山特別支援学校と大類グラウンドの工事にともない行われた堂山下遺跡の発掘調査は、古文書に記された中世集落「苦林宿」の発見につながり、毛呂山町の歴史の解明に大きな役割を果たしました。

鎌倉街道沿いの中世遺跡は、毛呂山の新たな歴史が発見される最前線なのです。



発掘調査によって見えてきた鎌倉街道のかたち

鎌倉街道掘割遺構の調査は、道跡の一部を横断するように掘り下げて、鎌倉街道の構造を探りました。鎌倉街道は、地点によっては道幅が4mにもなる箇所がありますが、掘割遺構で検出された道路の幅は2.8～3.2mしかなく、鎌倉街道の道幅が一定でなかったことが確認されました。

鎌倉街道沿いでは、中世に数多くの合戦が繰り広げられましたが、鎌倉街道を進んだ武士たちは道が狭くなる度に、隊列を細長くしながら進んで行ったものと考えられます。

道の両脇には、水はけの為の側溝が掘られ、水と一緒に流れ込んだ土をかき出した様子も確認されました。現代の地域清掃と同じように中世の人々も道路の管理に努めた様子が伺えます。

空から望む 鎌倉街道と中世の遺跡群

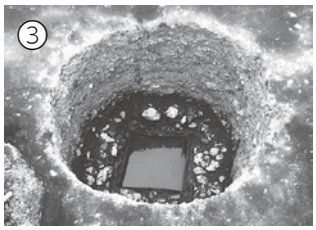
中世寺院跡 崇徳寺跡を掘る

延慶の板碑旧在地の崇徳寺跡の調査では、中世につくられた石の塔婆「板碑」をともなうお墓がみつかりました。板碑は、土器とセットでみつかったもの（右）や、板碑が一列に並ぶように据えられた台石の列（左）など見つかり、板碑が立っていた風景を探る手がかりとなります。

鎌倉街道のある風景

空から中世の遺跡を眺めてみると、鎌倉街道と越辺川が交わる周囲に集中しており、街道と河川が中世の集落を形成する重要な要素であったことがわかります。

鎌倉街道・川・集落が描く中世の風景に触れられる堂山下遺跡の周辺は全国的にも珍しい場所ですので、鎌倉街道散策の際には是非お立ち寄りください。



中世の集落 堂山下遺跡を掘る

鎌倉街道沿いの集落遺跡「堂山下遺跡」では、溝に囲まれた掘建柱建物跡（②）や鎌倉街道沿いに並ぶ建物、柵列の跡（①）、井戸（③）などが見つかりました。

遺物も、土釜（④）や鉢のような日常雑器の他に、常滑焼の大甕（⑤）や舶来品の青磁、鋳物職人が用いたけがき針（⑥）といった珍しい道具が発見され、商人や職人が活躍していた姿を思い浮かべることができます。

⑦のイラストは東京電機大学近津研究室が発掘調査の成果と中世の絵巻物をもとに再現した鎌倉街道沿いに広がる苦林宿の風景です。